

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	舞踊Ⅰ
開設学科	声優・演劇科	コース名		開設期 前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 60時間
単位数	2単位	授業形態	実習	
教科書/教材	浴衣一式、扇子、手ぬぐい			
担当教員情報				
担当教員	花ノ本寿・花ノ本寿美佳・花ノ本以知子	実務経験の有無・職種	有・舞踊家	
学習目的				
演劇には日本の時代劇を題材としたものがあり、着物を着て生活をしていた人を演じることがある。学生はこの授業を通して浴衣の着付けを習得し、和服を着て様々な動きの踊りを踊る。それにより和物の動き、和室での立ち居振る舞いに慣れることができる。また、日本舞踊は老若男女色々な役柄を演じ分ける芸能であり、この授業でも学生本人の性別に関わらず、立役（男役）と女形（女役）の両方を学ぶ。それは身体表現だけでなく科白（せりふ）も含まれる。それにより演じる役の幅、芸域を広げる。また、日本の和室での礼儀作法を、一年間毎回実践することで無理なく確実に身に付ける。この授業では「声優」も「俳優」の一つと見なす。				
到達目標				
全身を使って、立役・女形の両方を稽古することで、それぞれの表現方法の違いを見出し、色々な役柄に対応する力を身に付ける。浴衣の着付けが美しくそして早くできるようになり、浴衣で色々な動作をしても着崩れにくい方法を習得し、また着崩れてもすぐに直せるようになる。日本の伝統的な舞踊を学び、そこから知識と教養を高める。				
教育方法等				
授業概要	まず礼儀作法をきちんとし、礼に始まり礼に終わるという武道からくる日本の精神を知る。浴衣の着付けを丁寧にやる。扇子の扱い方、見立て（扇子で具体的な色々なものを表現する）を学び、舞踊の中にもそれを活かす。男踊りと女踊りの両方を稽古する。その際に自分が踊るだけでなく、学生同士お互いの踊りと注意された箇所を修正する様子を見て、切磋琢磨していく。歌舞伎舞踊の独特的な科白（せりふ）も勉強する。			
注意点	この授業独特の挨拶の仕方、出席を取るときの約束、荷物の置き方、休憩中の過ごし方、アクセサリー等を外す、などの設定されたルールをきちんと守ることを励行する。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。授業計画は浴衣の仕立て上がりや扇子の完成時期により、一部流動的になる。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	80%	礼儀作法、着付け、踊りなどすべてを総合的に評価する	
	平常点	20%	試験の評価の補助的な意味合い	
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容		各回の到達目標	
1回	日本舞踊について・各種説明		日本舞踊とは何か、なぜこの学科で学ぶのかを理解する。この授業独特の持ち物等を把握する。	
2回	基本動作・舞踊稽古		礼儀作法、足拍子、すり足（この3つを便宜上『A』とする）を練習。男踊り、女踊りに触れる。	
3回	基本動作・舞踊稽古		『A』、男踊り、女踊りの稽古を進めていく。	
4回	基本動作・舞踊稽古・扇子の扱い		『A』、男踊り、女踊りの稽古を進めていく。扇子の扱いを学ぶ。	
5回	舞踊稽古・扇子の扱い・浴衣着付け		『A』、男踊り、女踊りの稽古を進めていく。扇子の扱いを習得。浴衣の着付けに触れる。	
6回	舞踊稽古・扇子の扱い・浴衣着付け		『A』、男踊り、女踊りの稽古を進めていく。扇子の様々な表現を学ぶ。浴衣の着付けを習得する。	
7回	舞踊稽古・扇子の扱い・浴衣着付け		『A』、男踊り、女踊りの稽古を進めていく。扇子の様々な表現を習得。浴衣の着付けを綺麗にする。	
8回	舞踊稽古・浴衣着付け		男踊り、女踊りの稽古を進めていく。浴衣の着付けを綺麗かつ早くできるようにする。	
9回	舞踊稽古・科白（せりふ）		男踊り、女踊りの稽古を進めていく。歌舞伎舞踊独特の科白に触れる。	
10回	舞踊稽古・科白（せりふ）		男踊り、女踊り、科白の稽古。反復で無意識でも踊れるように。	
11回	舞踊稽古・科白（せりふ）		男踊り、女踊り、科白の稽古。無意識で踊れたら、動きの精度、正確さを上げる。	
12回	舞踊稽古・科白（せりふ）		男踊り、女踊り、科白の稽古。さらに、情景の想像、感情等を乗せて踊る。	
13回	全ての課程の復習		『A』、男踊り、女踊り、科白の復習。扇子の扱い・表現の復習。浴衣の着付けの確認。	
14回	全ての課程の総仕上げ		男踊り、女踊り、科白を反復。	
15回	前期試験		これまで学んだことの試験。この試験で成果発表の場の立ち位置などが判定される。	